

北陸石仏の会々報

石造物の移転 岩木新の金毘羅大権現

平井一雄

はじめに

見慣れたる路傍の石造物（地藏・観音・名号塔・題目塔など）がある日、無くなっている驚くことがある。また旧道や山路にあったはずの観音さまや道しるべ地藏が無くなっていることに気づくこともある。このことは摩耗や破損で単なる石の欠けらになってしまったこともあるが盗難、移転、廃棄などで見えなくなったものが殆どである。

今年、令和六年一月一日以降の能登半島地震被災で路傍、寺社にある石造物の倒壊、破損が会員滝本、松井、尾田各氏から報告されている。平井家の近傍では富山県富山市(旧大山町)花崎、花咲神社の刀尾天神石像が足元で折れて横倒しになったという震災被害を松井さんの案内で確認した。二月三日以降、松井さんと平井で飛騨市横山、西猪谷、片掛、大山町大川寺、文珠寺の石仏群を現状確認した。いずれも被害はなかった。

一、富山県富山市岩木新の金毘羅大権現

「北陸石仏の会々報第46号」から要約再録する。

旧大沢野町岩木新(北)の金毘羅石像 平井一雄

岩木新在住の浅野家の屋敷神。このお堂の前を大久保用水が流れている。

浅野家はこの用水を利用した木材運搬をしておられた時代があり、金毘羅大

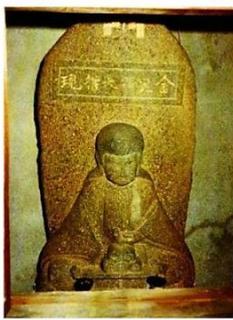
権現を屋敷神として祀られていた。家内安全、病氣平癒を願って祀られたといわれている。「金毘羅大権現」という金泥の銘があり、お宝(反物)が供物である。

二、金毘羅造石像の移転

岩木新在住の浅野家が屋敷、土地とも手放され退転されるということになり、屋敷神である金毘羅さまをどうしたらよいかという問い合わせが富山県立公文書館に浅野家近親の方からあったという。公文書館古文書調査員を委嘱されている私に職員、栄さんから相談された。参考文献として『みちばたの文化財』大沢野役場編を紹介し、岩木新に入る大久保用水橋詰に三界万霊の聖観音石像を祀る祠堂が一本桜の大木の下に祀られている。この祠堂の横に移転されたらどうかと提言した。この顛末はどうなるか漂泊の金毘羅大権現とならないように祈っている。金毘羅祠堂にはすでに御神体は見えなくなっていた。



岩木新 浅野家 令和6年2月8日 金毘羅大権現祠堂 御神体不在



岩木新の金毘羅大権現



岩木新の三界万霊石仏祠堂 天保六年春 建之



第72号
 令和6年4月10日発行
 編集と発行
北陸石仏の会
 (日本石仏協会北陸支部)
 代表 平井一雄
 〒939-1315
 富山県砺波市太田
 1770 尾田武雄方
 電話 0763-32-2772
 振替 00740-2-11974
 (年会費 3000円)
 ホームページ
<http://odatakeo.wp.xdomain.jp/>

- ・石造物の移転
- ・砺波地方の六観音
- ・江戸時代の井波石工
- ・地震による被害石仏

第66回例会案内

砺波地方の六観音

滝本 やすし

六観音は、六地藏に比べ造立数が少ない。富山県の旧砺波郡に、数組の六観音を確認している。

①富山県南砺市(旧福野町)安居の高野山真言宗安居寺

安居寺の大樫の根元の木造小堂内に、七体の観音が納められている。いちばん右の千手観音は、石材・法量・手法が他の六体と異なることから、別に造られたものである。六観音はいずれも砂岩製の光背型座像で、高さ約73cm。本体や光背に銘は入っていない。向って左から、如意輪観音、馬頭観音、准胝観音、十一面千手観音、十一面観音、聖観音の順に並べられている。全七体の観音の台石はコンクリート製で、二段構成になっている。上段の台石にはそれぞれ一名ずつの名前が刻まれているが、後補のものである。

②富山県南砺市(旧福野町)福野の曹洞宗恩光寺

恩光寺山門左手の木造小堂内に、向って左から十一面観音、千手観音、聖観音、不動明王、如意輪観音、馬頭観音、不空絹索観音が納められている。いずれも花崗岩製で、不動明王は火焰光背型の浮彫り立像で総高71cm、六観音は舟光背型の浮彫り座像で総高約55cm。不動明王を含む七体は無銘であるが、石材や手法が同じなので、同時に作られたものと思われる。

③富山県南砺市(旧福光町)福光の路傍

荒町路傍の石造堂内に、向って左から如意輪観音、准胝観音、十一面観音、不動明王、千手観音、馬頭観音、聖観音が納められている。不動明王は火焰光背型の浮彫り座像で、総高約120cm。六観音は舟光背型の浮彫り座像で、総高約100cm。いずれも砂岩製である。また聖観音の前には千手観音立像が置かれているが、福光町坂本から朴坂峠を通り金沢市二俣にかけて造立された十三体の観音の第十番であり、後に堂内へ移されたものである。

不動明王を含む七体全ての光背の裏面には「願主／石崎彦九郎」の銘が刻

まれている。いちばん左の観音の台石に「作者／井波／石屋／甚右エ門」と、他の六体の台石には「同」と刻まれている。これらの七体は朴坂峠登り口にあったものを、大正九年に現在地に石造の堂を建てて移された。

石堂の基礎は幾種類もの石を積み重ねたカラフルなもので、この様式は旧福光町、旧福野町、金沢市に多くみられる。この堂は、石造の堂としては大きなものである。大正九年九月十八日に、安置式が行われた。

石崎家は福光町和泉の旧家で、代々市右衛門や彦三郎の名を継いでいた。藩政時代には、得能家と共に砺波郡の十村の筆頭であった。十代目市右衛門は小矢部川に投身自殺した娘の供養のため、文化元年に福光町坂本から朴坂峠を通り金沢市二俣にかけて三十三体の観音を造立した。これらの三十三体は西国三十三ヶ所観音であり、現在はそのうちの二体が所在不明となっている。彦九郎はこの石崎家の末裔であろうか。

④富山県南砺市(旧井波町)北川の路傍

今町三丁目路傍に地藏が納められた小堂があり、その周りに四基の石塔が建てられている。左手前の石塔に「南無金剛神」と刻まれており、庚申塚と呼ばれている。左奥の金屋石(砺波市庄川町金屋で産出される緑色凝灰岩)製の石塔は舟型に加工されており、一石に六観音が浮彫りされている。全て座像で、二体ずつ三段に並んでいる。総高約180cm。

磨滅が激しく像容がはっきりとしないが、上段左が馬頭観音、上段右が十一面千手観音、中段左が聖観音、中段右が十一面観音、下段左が准胝観音、下段右が如意輪観音のようである。正面右に細かな文字が刻まれているが、判読困難である。また正面下部には「金榮庄太郎」と刻まれている。

すぐ近くの高野山真言宗大寶寺境内の石造不動明王の左側面には三十一名の願主が刻まれており、その中にも金榮庄太郎の名がみられる。この不動明王は井波の石工常山金三郎の作で、大正四年建立の銘が入っている。しかし六観音の石塔とこの不動明王とは手法が異なっているので、おそらくは別の石工の作であろう。また代々同じ名前を継ぐことも考えられるので、それぞれに刻まれている金榮庄太郎が同一人物であるかは不明である。

江戸時代の井波石工

尾田 武雄

富山県南砺市井波には、閑乗寺から採掘される砂岩質の通称井波石が藩政期から盛んに掘られた。石造物で、江戸時代の井波石工名が刻まれているのは、「常川五市郎」、「善太郎」、「甚右衛門」、「七次郎」の四名である。

善太郎 写真①②

砺波市芹谷にある高野山真言宗千光寺の西方向一キロの路傍に石塔が建っている。庄川右岸の芹谷段丘通る古い旧道がある。旧北陸道の中田・戸出線の常国弓の清水から松原新・増山・福岡を経て三谷へとたどる巡見使道と云われる道である。この石塔のある地点の段丘下には俗に「岩神」と云われる徳万下村の五社神社がある。また「芹谷山千光寺拝領地絵図」（文政八年九月千光寺蔵）には、この石塔から千光寺の「参道」が記されている。古くから変わらずにここにある。この石塔は文政五年（一八二二）四月五日に倒れ、修復されている。その後戦後除雪車によって倒れ、平成十八年五月千光寺観世音菩薩御開帳の日に再修復された。

(正面)

「梵字サ（聖観音） 煌苦肋福生靈旧理救殃脱咎□□畏無苦□海印

龕妙等応像梵国見大口鎮此萬流□□功至龍庭

(右側面)

「芹谷山観音道 従是八町」

(背面)

「石工 井波善太郎」

(左側面)

「皆延享甲子秋南呂穀旦 千光寺五十七代僧性海肅誌」

背面に「石工 井波善太郎」と刻まれている。郎は読めないがこれは「郎」であろう。『井波町史下巻』によると享保十八年（一七三三）に石山希望者に

百五十匁の役銀とひきかえで採掘させた。以後採掘権は、特定の人に与えられ売買の対象になった。（『町中末々困窮に付助成願書』三十頁。『井波町史下巻』百十三頁）。それから約十年後の延享元年（一七四四）千光寺石塔が造られ、「石工井波善太郎」の銘が残る。井波の石工としては延享五年（一七四八）には「石仏出来開眼井波石屋作」（『医王は語る』P 参百八十七頁・福光町法船寺文書）がある。その後天明七年（一七八七）新たに石山を開き、北川村の石屋善太郎に一年銀二十匁で採掘権を与えた。（『石切山請場所詮議願書』『井波町史』P 496）

常川五市郎 写真③④⑤⑥

常川五市郎は、明治に入り常川義太郎、常川茂太郎等と関係がありそうであるが、多くはわからないが五市郎は氷見市長坂の曹洞宗光西寺に三十三か所観音、六地藏、不動明王坐像がある。不動明王坐像の台座には、「維時嘉永四年亥五月吉日 當山十九代蘆舟謹書 石工當国砺波郡井波住 常川五市郎謹刻作之」と彫られている。南砺市文化財審議委員長であった故千秋謙治先生が常川五市郎は文政元年（一八一八）十月生れで、嘉永四年（一八五二）は五市郎三十二歳にあたるという。住職のお話では、五市郎が光西寺に泊まり込みで、石仏を彫ったと伝えている。しかし残念ながら、五市郎の消息はこれ以上わからない。

甚右衛門 写真⑦⑧⑨⑩

甚右衛門作の石仏は、南砺市野尻岩武神社付近路傍にある阿弥陀如来坐像があり台座に「作 石工甚右衛門」とある。小矢部市下中公民館内に阿弥陀如来坐像の台座に「作者 井波石工 甚右衛門」とあり、南砺市福光路傍に六観音があり台座に「作者井波石屋甚右衛門」、小矢部市経田にやはり阿弥陀如来坐像があり台座に「作 石工甚右衛門」とある。年号が彫られてないが、江戸時代後期の作と思われる。この甚右衛門の来歴は定かではない。



③不動明王坐像
(氷見市長坂光西寺)



②葦酒塔(砺波市芹谷千光寺)



①千光寺石塔落成記念 005



⑤六地藏(氷見市長坂光西寺)



④氷見市長坂光西寺阿弥陀如来坐像台座



⑦阿弥陀如来坐像(南砺市野尻)



⑥三十三か所観音(氷見市長坂光西寺)



⑩阿弥陀如来坐像
(小矢部市経田)



⑨六観音(南砺市福光)



阿弥陀如来坐像
(小矢部市下中公民館)

令和六年能登半島地震による石仏等の被害

滝本 やすし

元日の夕方に能登半島を震源とする最大震度七の地震が発生、北陸地方の広範囲に甚大な被害をもたらした。石川県の金沢市以北と、富山県の舟橋村以西を調査した。次は、文化財登録されている石造物の被害状況である。

・石川県珠洲市三崎町寺家天台宗翠雲寺の五重塔 珠洲市指定文化財(有形文化財) 倒壊、破損している。写真①

・石川県珠洲市宝立町南黒丸八幡神社の三重塔 珠洲市指定文化財(有形文化財) 倒壊、破損している。

・石川県輪島市鳳至町住吉神社の鳥居 輪島市指定文化財(建造物) 倒壊、破損が激しい。

・石川県輪島市中段町の阿弥陀三尊種子板碑 石川県指定文化財(史跡) 覆い堂が倒壊、下敷きになっているが割れていないようである。

・石川県輪島市中段町白山神社の五重塔 石川県指定文化財(建造物) 倒壊、破損している。初層に納められていた石仏が転がっている。写真②

・石川県穴水町明千寺高野山真言宗明泉寺の五重塔 国指定重要文化財(建造物) 倒壊は免れたが、三層屋根から上がズレており、一部に崩落もみられる。初層軸部にもズレがあり、倒壊の危険がある。写真③

・石川県志賀町富来地頭の中世墳墓窟群 石川県指定文化財(史跡) 墳墓窟の中に納められていた五輪塔などが崖下に転落している。

・石川県志賀町福野気多神社薬師堂の妙法蓮華経碑 石川県指定文化財(歴史資料) 台座から転倒しているが、割れていないようである。

・石川県羽咋市滝谷町日蓮宗妙成寺開山堂の笠塔婆 羽咋市指定文化財(考古資料) 開山堂内の笠塔婆が転倒している。写真④

・石川県津幡町鳥越大國神社(弘願寺跡)の宝塔 津幡町指定文化財(建造物) 倒壊、笠に損傷がみられる。

・富山県砺波市庄川町金屋岩黒の不吹堂 砺波市指定文化財(有形民俗文化財) 情報提供砺波市教育委員会 石堂が崩壊、中に納められていた阿弥陀種子を刻む石塔は以前から割れていた。写真⑤

・富山県富山市五艘曹洞宗長慶寺の五百羅漢 富山市指定文化財(史跡) 情報提供松井兵英 五百羅漢の二体が倒れており、一体が途中で折れている。



③明泉寺五重塔



②中段町白山神社五重塔



①翠雲寺五重塔



⑤岩黒の不吹堂
写真提供: 砺波市教育委員会



④妙成寺開山堂内の笠塔婆

文化財登録されていない石造物について、これまでに数百件の被害を確認している。これらの中からいくつかを記す。

・石川県輪島市河井町曹洞宗蓮江寺 地震後に発生した大規模火災によって本堂が全焼した。寺の向かいには広大な焼野原となっている。西国三十三ヶ所観音のほとんどが転倒破損している。六地藏も同様である。写真⑥

・石川県輪島市門前町鬼屋 路傍の庚申塔が十七年前の大地震で台座から転落、二つに割れた。その後修復され、建て直されていた。今回の地震で再び転落したが割れなかった。写真⑦

・石川県能都町宮犬高野山真言宗弥勒院 本堂と庫裡は損傷が激しく、倒壊の危険がある。本堂左手の河下大明神堂が全壊、河下大明神の石像が下敷きになっているが外からは確認できない。参道の光明真言供養塔が後ろに倒れかかっており、六地藏と六観音は全て転倒し損傷が激しい。写真⑧

・石川県羽咋市南中央町唐戸山相撲場 敷地内の養蚕紀功碑が、繭型の台座から転落している。女性蚕神が彫られた正面は下向きになり、馬鳴菩薩が彫られた裏面が上向きになっている。写真⑨

・石川県内灘町室八幡神社 液状化現象によって境内はメチャクチャになっている。危険なので入れない。写真⑩

・石川県金沢市天神町一丁目椿原天満宮 在銘最古の逆立ち狛犬の台座が崩壊、転落破損している。灯籠などにも損傷がみられる。写真⑪

・富山県小矢部市埴生浄土宗医王院 不動明王が台座から転落、五つの小片に割れている。写真では光背上部の二片の並べ方が間違っている。写真⑫



⑥蓮江寺の西国三十三ヶ所観音



⑨唐戸山相撲場の養蚕紀功碑



⑧弥勒院の六地藏、光明真言供養塔、六観音



⑦鬼屋路傍の庚申塔



⑫医王院の不動明王



⑪椿原天満宮の狛犬



⑩室八幡神社

北陸石仏の会 第66回例会

—旧福光町と旧福野町の石仏めぐり—

令和6年5月19日(日)

参加費：会員2000円（会員外3000円）

集合場所：①JR砺波駅南口……………7時30分

②道の駅なんと一福茶屋……………8時00分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

※集合場所および時間が不都合な方はご連絡下さい。

※感染対策を行い、乗用車に相乗りします。

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：令和6年5月2日(木)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定 富山県南砺市旧福光町と旧福野町

①南砺市坂本 共同墓地／誕生釈迦

②南砺市福光 路傍／不動明王と六観音

③南砺市田中 路傍／水天

④南砺市高宮 路傍／中世石塔群

⑤南砺市土生 共同墓地／善光寺式阿弥陀三尊

⑥南砺市鍛冶 路傍／「水天神宮」

⑦南砺市鍛冶 路傍／金剛界大日種子板碑

⑧南砺市広安 平田神社／逆立ち狛犬、「水宮」、「水天神宮」

⑨南砺市雨潜 神明宮／不動三尊

⑩南砺市福野 路傍／六地藏

⑪南砺市福野 曹洞宗恩光寺／不動明王と六観音

⑫南砺市福野 曹洞宗準堤寺／三尊石龕(秋葉権現・金毘羅権現・不動明王)

⑬南砺市高儀 共同墓地／釈迦三尊

⑭南砺市安居 高野山真言宗安居寺／六観音、花山法皇と西国三十三ヶ所観音

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

令和6年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。